



2020 年度
自己点検・自己評価報告書

学校法人 河合塾学園
トライデントデザイン専門学校

2021年6月1日作成

1. 学校の教育目標

本校の教育理念は、『汝自らを求めよ』<自らを究め、この世に生まれて来た自らの使命を見いだして、それをあくまで追求する喜びが、すべての人間に与えられていることを意味する>である。これは河合塾グループの共通理念でもある。この教育理念を『Seek for Thyself』として学章に記して明確にしている。職業教育のいっそうの追求に向けた近年の教育改革の取り組みの中で、専門学校グループとして教育理念をより具体的な言葉にする必要があると考え、平成25年度において改めて検討のうえ宣言することにした。その内容は「トライデントは、みなさん一人ひとりを、志望の職業に導くのはもとより、将来、業界を牽引できる人材へと育て上げます。」である。これを、トライデント全校を貫く共通的な教育理念とした。

各専門課程の教育目標は次の通りである。

「総合デザイン学科」

デザイン全般を学び進路を定め、企業が求める人材教育とデザインを通じて社会に貢献できる人材を育成する。

・カリキュラム構成の考え方は、1年次に「共通科目」としてデザイン全体の基礎科目を習得し、2年次に選択するビジュアルデザインコース・CGデザインコース・インテリアデザインコースの「専門理論科目」「専門実技科目」及び「基礎造形科目」「感性教育」の科目群を体系立ててカリキュラム構成し、学年ごとに学修の効率性と進捗予定を考慮して配置し、卒業年次においては、それまでの成果を土台に実務に即した業界知識・技術修得が可能な設定としている。

- ・基礎教育の徹底と「専門技術」・「社会人基礎力」を備えることができる職業人教育を行う。
- ・産学連携・特別授業・インターンシップなどプロに接する機会を設け、実社会と接続した実践的な学びの場を提供する。
- ・資格取得を進級・卒業規定に定め、専門知識の習得と学習に関する成果をつけさせる。また、インテリアデザインコースは、建築士2級、施工管理士2・3級の資格取得の実務軽減がされるカリキュラムを提供する。
- ・将来を見据え、学生が主体的にキャリアを決められるよう、講師とスタッフが一体となったサポートを行う。
- ・英会話の授業を必須として、海外を視野に入れて活躍できるデザイナーの育成を行う。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ①評価される就職実績を出すための総合デザイン学科教育プログラムの完成。
 - ②「英会話」授業のカリキュラムのブラッシュアップ（継続）と海外の教育機関との連携を深め、英語力を備え留学経験のある卒業生を輩出する
 - ③教育内容の充実と学生サポート強化：退学率7%以下、授業満足度90%、就職率95%
 - ④各種留学プログラムの企画実行
 - ⑤資格試験開講科目の決定と資格合格率と取得率を高める
 - ⑦教職員のスキルを高め、円滑に学校を運営する
- の7点を重点的に掲げ、取り組み、検証していく。

*2020年度は当初目標・計画が新型コロナウイルス感染のため、大きくスケジュール変更してスタートすることになった。前期開始1か月は全学年オンライン授業スタート、2か月目からオンライン授業と対面授業のハイブリッド授業、3か月目から対面へ3段階での授業運営を行った。後期は1年生については基礎スキル習得のためと、個人用パソコンがないため、対面授業で実施。2・3年

生は曜日毎にオンライン・対面と指定し、学校内の密を避けての授業運営を行った。学校運営的には、コロナ禍の中、いち早くオンライン授業に切り替え、学校を休校することなく、教育を継続できたことは評価している。

また、海外スカラシップ留学・海外デザイン研修などの海外プログラムはコロナのため中止となった。一定層の学生が留学プログラムに興味を持ち入学してくれているので実施できないのは残念である。

卒業生制作展の実施に関して新しい取り組みとしてインスタグラムによる作品の情報発信や、3DVR化もチャレンジした。今後の制作展の在り方も検討していきたい。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目1：学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
項目2：学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
項目3：社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
項目4：学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等 周知されているか	4	③	2	1
項目5：各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向 けて方向づけられているか	④	3	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

- ・評価項目3について
社会経済のニーズを把握し、コロナ禍で加速した教育のICT化を今後どのように教育に活かしていくかが課題。
- ・評価項目4について
学内への浸透は進んでいるが、コロナの影響で保護者会の中止や、直接業界団体・企業との対話の機会損失により周知は不十分であった。
- ・評価項目5について
就業観育成のためのインターンシップ企業や産学連携企業の開拓が十分でないのと、インターンシップ参加率が100%を達成していない。但し2020年度はコロナ禍により、企業側でのインターンシップ受け入れ制限などがあった点は考慮できる。
業界のニーズ＝社会人基礎力の高い人材＝”一緒に働きたいと思える人”を育てる為の施策を明確にしており、様々な授業で周知させており、継続して意識させることが課題。

② 今後の改善方策

- ・授業運営の効率化も踏まえて教育ICT化の利点を共有し、推進していく。
- ・インターンシップ企業開拓と学生への早期意識付けと誘導強化。各コースの意識の差異をなくするため、早期にインターンやエントリーの意識付けを行う。ワンデーインターンシップやオンラインインターンシップと参加しやすくなったのを活用させる。
- ・各コース実践的な学びである産学連携授業の積極的な導入。
- ・学生には、新入生対象の導入教育やホームルームを通じて、学校で学ぶべき目的等を再確認できるように、また保護者に対しては、保護者会、三者面談、保護者通信を利用して情報共有を図る。
- ・教育課程編成委員より収集した提言から業界ニーズに合ったカリキュラムを策定するために、早期にカリキュラム会議や教務会議を実施し、次年度に反映させる。
- ・総合デザイン学科のコース、ゼミのカリキュラムを検証し、改善を行う。
- ・継続して各コース、各授業内で社会人基礎力をアップさせる取り組みを行う。

③ 特記事項

総合デザイン学科をスタートして3年目。職業教育の特色として、デザイン+αの人材育成のために、「英会話」授業の必須導入と「多彩な留学プログラム」の催行、資格取得を進級・卒業条件に加えた。この間の教務サイドの地道な留学の必要性のPRし、参加者も増加したが、2020年度はコロナ禍のため全ての留学プログラムは中止。資格取得に関しても、前期はほぼ全ての検定試験が中止・延期となり、検定試験対策講座で学んだ知識がすぐに生かせなかったため、基準の資格取得ができず、進級・卒業試験を受ける学生が増加した。1年生の前期の「業界研究Ⅰ」授業では、キャリアセンター、各コース長が業界に特化した企業を選出し、企業講話を対面・オンラインにて15回実施。めざす業界の早期意識づけを行っている。

トライデントの教育理念を周知徹底するべく、毎年「トライデントのかなえる力」を作成し、募集活動（高校生・保護者・高校教諭）、就職活動（企業）に配布、継続啓蒙を行っている。

(2) 学校運営

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目1：目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
項目2：運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
項目3：運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
項目4：人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
項目5：教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
項目6：業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
項目7：教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
項目8：情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

評価項目8について

・コロナ禍で一早くオンライン授業に切り替え運営することで、業務のデジタル化への意識が高まった。アナログ業務もまだ多いので、整理してデジタル化の推進が必要。

② 今後の改善方策

- ・情報共有のペーパーレス化に対応するため、学生ポータルサイト活用やアンケートの電子化、担任にタブレット端末を配布・利用するなど促進させる。配布物の多いチームMTGの実施方法についても見直をする。
- ・求人票の電子化を検討。

③ 特記事項

事業計画については「長期ビジョン」「中期経営計画」「年次計画」に基づき、まず校舎および各学科としての年度計画を決定し運営している。運営状況のチェック確認については、月に1回本部主催の学校会議にて校長及びチーフが参加し、進捗およびスケジュールの確認を行い計画に沿った学校運営に努めている。

(3) 教育活動

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目1：教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
項目2：教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
項目3：学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
項目4：キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
項目5：関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
項目6：関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
項目7：授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
項目8：職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
項目9：成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
項目10：資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
項目11：人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
項目12：関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
項目13：関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④	3	2	1
項目14：職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

- ・評価項目2について

スキル面での到達レベルの明文化をする必要がある。

スキル面において学生のレベルが多様である現状をふまえ、明示された到達レベルとの差を埋めるための個別指導をどう盛り込むかが課題である。

- ・評価項目 3・4について
学生の気質やレベル、コースの人数に合わせて、カリキュラムや教育方法の工夫・変更をしていかなければいけないが、対応しきれていないのが課題である。
- ・評価項目 5について
教育課程編成委員会・学校関係者委員会を利用して、体系的なカリキュラムと、現場での即戦力としての人材輩出に向けてのカリキュラム修正を同時並行で実施している。学科・コースによりインターンシップの参加、産学連携授業の取り組みに差があることが課題である。
- ・評価項目 6について
産学連携授業を重視し、数が増加したため、制作スケジュールに無理が生じ、学生の負荷が生じた。
- ・評価項目 11・12について
業界での現場経験があり、かつ、体系的なカリキュラム理解、学生の学習状況把握、成績評価などの指導プロセスが身に付いており、柔軟な対応ができる教員確保、および「デザイン」をツールにして「人間力」を鍛えていける講師確保が課題である。
教員により人材育成目標のばらつきがあるので、コース毎の明確化が必要である。
- ・評価項目 13について
教員研修として、全学科共通の内容での研修は年2回以上、学校主体で企画運営しており、その意味では学校として取り組みができていると評価できる。一方で「関連分野における先端的な知識・技能等を取得するための」に合致した専門科目に関する研修については、外部セミナー・研修にゆだねるしかないため、各講師にまかせている。今年度はコロナ禍ということもあり、オンライン授業準備等予定外のことも多かったため、時間確保に苦労した。

② 今後の改善方策

- ・学科長・コース長を中心にスキル面の到達レベルを明確化する。レベルに応じた指導法の確立も検討する必要がある。
- ・総合デザイン学科のカリキュラムを体系的に検証し、1年次のスキル習得目標にあったカリキュラムの再構築。学生の気質を理解した上での課題等の調整の検討。
- ・授業外でも基礎スキルを身に着ける機会を増やす。
- ・教育課程編成委員会からの提言に基づくカリキュラムの見直し実施。
- ・デザイン力+ α のスキルを持った講師の開拓。
- ・産学連携先企業の開拓と取り組み内容の見直し
- ・オンライン・対面の併用を検討する。
- ・「関連分野における先端的な知識・技能等を取得するための」研修の発掘と参加への誘導。コロナ禍でオンラインセミナーも増えたので、オンラインセミナー活用の検討。

③ 特記事項

- ・3年生プロジェクト型科目として、コースを横断した授業の取り組み実施。
東白川村の特産品「お茶」を商品開発。PR動画制作・販売ブース提案などコース横断して取り組み、クラウドファンディングで資金調達を行った。結果は目標達成できず、商品化にはならなかった。2021年度はプロジェクト型として取り組む企業を小牧ワイナリーに変更して実施予定。

(4) 学修成果

備 項 目	評 価			
	4	3	2	1
項目 1 : 就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
項目 2 : 資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
項目 3 : 退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
項目 4 : 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
項目 5 : 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されている	4	3	2	1

評価： 適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

① 課題

- ・評価項目 1 について
 業界への就職率は向上しているが、コロナ禍が影響しているのか就職希望者数が減少し、非就職者が増加した。
 メンタルケアが必要な学生の就職支援についてが課題。
- ・評価項目 3 について
 前期全学年オンライン授業スタート、後期 1 年生以外はオンライン・対面授業と併用。そのためか、メンタル不良になりがちな学生がオンライン授業で救われ、退学率は抑制された。
 退学・休学は入学時のレベル差も要因となることがある。
- ・評価項目 4・5 について
 卒業生の追跡調査の術がなく、活躍・評価の把握が難しい。常勤講師経由や来校する卒業生のみ
 の情報収集となっている。
 インテリアデザインコースの卒業生の 2 級建築士・施工管理技士・インテリアコーディネータの
 資格取得率の把握。

② 今後の改善方策

- ・早期の働く事への意識付けと個別の就職指導が必要。
- ・自信を持たせるために、己の武器となる一芸を身に着けさせる。
- ・担任による出席状況の把握と欠席過多など問題のある学生に対して個別面談や保護者連絡を
 早期に、タイミングを逃さず対応する。
- ・現在の学生のレベル・タイプを把握し、現状に寄り添った課題設定・評価方法の見直しが必要。
- ・退学者を防ぐための教職員の勉強会や意見交換会の実施。
- ・キャリアセンター、同窓会主体の全体把握するための、ネット上でのアンケートの実施。
- ・卒業生が自らの情報を更新できるなどデータベースの仕組み作りが必要。
- ・入社後の追跡調査を兼ねた会社訪問及びインターンシップ・産学連携企業開拓時に卒業生が
 いる企業を中心に会社訪問し情報収集を行う。
- ・同窓会の在り方の見直し。

③ 特記事項

- ・就職内定率：100% (97.2%)、退学率：2.4% (11.0%)

・教員による担任制度で、年間を通して面談し、退学予備軍の早期発見、卒業後の進路相談とケアが可能になっている。

・メンタル面の問題などで就職活動ができない学生については、保護者と連携をとり、カウンセリング室の利用なども勧めている。

・資格取得に関しては、進級・卒業要件に含まれているため、合格率・取得率の向上は図れている。一方で、2020年度はコロナの影響で前期の検定試験が中止・延期となり、検定によっては、対策講座実施日から検定日までの期間があき、思うような成果がでなかった検定もあった。

取得率 1年生：色彩検定2級 70.5%、ビジュアルデザインコース：レタリング検定 80.6%
CGデザインコース：CGクリエイター検定ベーシック 80.6%、
インテリアデザインコース：商業施設士 88.9%

・コンテスト受賞結果：

<ビジュアルデザインコース>

- ・CCCポスターコンペ 優秀賞1名、審査員特別賞2名、入選16名
- ・TSMプロジェクトロゴマーク採用
- ・長草君アートコンテスト 特別賞1名、努力賞1名
- ・パンダアートコンペ 入賞2名

<インテリアデザインコース>

- ・公益社団法人 商業施設技術団体連合会主催 第18回 主張する「みせ」学生コンペ 優秀賞2名、入賞1名
- ・一般社団法人日本インテリアファブリックス協会主催 第17回 インテリアデザインコンペ 優秀賞1作品、奨励賞1作品、入賞2作品
- ・トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校7階バンケットリニューアルコンペ 1作品採用

(5) 学生支援

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目1：進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
項目2：学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
項目3：学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
項目4：学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
項目5：課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
項目6：学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
項目7：保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1

項目 8 : 卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
項目 9 : 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1
項目 10 : 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1

評価： 適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

① 課題

- ・評価項目 2 について
学生相談室の開館日が週 2 日・時間固定のため授業で利用できない学生がいる。
学生相談に関する体制は担任の経験と臨機応変な判断によるところが大きい。
- ・評価項目 4 について
学生の健康管理については、専門スタッフを配置する体制はとれていない。
- ・評価項目 7 について
問題を抱えている学生の保護者との連携はできているが、それ以外の学生の保護者とは 1 年次の保護者会、2 年次の三者面談のみにとどまっている。
- ・評価項目 8 について
卒業生への支援体制はあるが、積極的な告知はできていない。

② 今後の改善方策

- ・学生相談室の利用日数・時間の見直し。
- ・体調面で問題を抱える学生への対応研修を実施。
- ・各学年に保護者会・面談の必要性があるかを検討する。
- ・卒業生とのコネクションを保つ方法を検討。また、在校生の就職先の参考にもなるように情報を共有し活用できる方法を模索する。

③ 特記事項

- ・就職を最終ゴールとしたカリキュラム編成である。卒業後の進路決定に向けて、キャリアセンター担当者、担任と連携した体制を整備しているが、就職活動率や、
- ・進路・就職を支援する新設キャリアセンターにはキャリアコンサルタント、学生相談室には臨床心理士を配置している。
- ・学生に対する経済的な支援体制は、入学前より学費の相談会の実施や各種奨学金の案内と 2018 年度に引き続きヨシックス記念財団奨学金の給付型の奨学金、修学支援の案内を追加実施した。学内の奨学金制度も設けている。
- ・修学支援制度を認定校。授業料等減免対象者及び給付奨学生の対象者数：年間 29 名。
- ・課外活動は、姉妹校と合同での 2020 年度より同好会としたが、コロナ禍で活動中止。
- ・保護者に対しては、例年入学後の 5 月に保護者会を実施していたが、コロナ禍で中止。コロナが少し落ち着いたタイミングで就職前年度生には担任・保護者・学生による三者面談を実施した。また、年 2 回（前期・後期）に学生の出席状況と保護者通信を発送しているが、前期はオンライン授業でスタートしたため、前期の出席状況・保護者通信発送は中止。後期は 1 年生対面、2・3 年生はオンライン・対面の併用であったため、予定通り発送。出席不良などは適宜担任より電話連絡を入れ、必要があれば面談実施などを行っている。
- ・卒業生に対しては、同窓会組織の編成以外に、株式会社パソナ(人材派遣・人材紹介の大手)と提携

し、就職サポートをおこなう「卒業生就職支援サービス」を、2006年より実施しており、相談員が無料で仕事の適正や悩みの相談に応じる他、全国から求人企業を探して就職先も紹介している。転職希望の有無にかかわらず、キャリアアップの相談や研修受講など、卒業生を継続的にフォローしている。但し、このサービスに関して卒業生に告知・啓蒙は十分にできていない。

- ・高校からの依頼で進路指導や面接練習などの講師派遣をしている。
- ・高校生のインターンシップについてもオファーがあれば、可能な限り受け入れている。2020年度はオファーなし。

(6) 教育環境

評価項目	評価			
項目1：施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1
項目2：学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
項目3：防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

- ・評価項目1について

コロナ禍で学生が密になることを避けるため、エレベータの利用人数・低層階の利用階を制限したため、低層階の学生からのクレームが出た。

学生数増に応じた教室のキャパ不足については、教室数を増床させて改善に努めているが、大教室の不足や、異なった目的での実習室利用など、効率よく授業運営する上での時間割編成に支障をきたしている。

実習室での実習機の老朽化への対応が課題。

- ・評価項目2について

コロナ禍のため、海外研修は中止せざるおえなかった。インターンシップに関しては、企業側の受け入れ制限や中止で、計画通りの実施とならなかった。

- ・評価項目3について

各個人の防災意識向上が課題

惨事の際の教室内の導線が十分ではない。

② 今後の改善方策

- ・課題であった空調・設備の老朽化は全面入替工事を完了して改善。
- ・エレベータ使用時の階数制限に関しては、低層階も配慮して利用範囲の拡大を検討する。
- ・実習機の入替に関しては2021年度に補助金申請を行い入替予定。
- ・インターンシップ企業の新規開拓と、コロナ禍でオンラインによるインターンシップを実施する企業も増加傾向にあるので、それらを活用し、地元こだわらない企業へのインターンシップ参加を促進する。
- ・防災管理徹底のための意識啓蒙と地震対応の避難訓練を実施。

③ 特記事項

- ・中部地区専門学校では一早く Zoom を利用したオンライン授業導入もスムーズにでき、授業を継続できた。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	評価			
	4	3	2	1
項目1：学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
項目2：学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	③	2	1
項目3：学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

評価項目2について

教育成果、就職実績の情報発信を強化することが課題。

② 今後の改善方策

資格取得、インターンシップ、コンテスト入賞実績、特色ある授業内容などをDMやSNSを通じて、タイムリーに情報発信していく。

③ 特記事項

留学生の受け入れ：留学生の増加に伴い、留学生の入学選考の考え方は、入学資格および勉学の意思確認に力点を置くものである。出入国管理および難民認定法に定められる在留資格の活動目的範囲との整合性、ならびに法務省令の所定基準に則した経費支弁能力も付加的に審査・考慮し、入学判定材料としている。

(8) 財務

評価項目	評価			
	4	3	2	1
項目1：中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
項目2：予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
項目3：財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
項目4：財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

安定した入学者数の受け入れと退学者の抑制が課題。

② 今後の改善方策

- ・費用を抑制したイベント来校者の促進施策の検討。
- ・フラッグシップ企業への就職実績作りや、学生満足度向上のためのカリキュラム充実。
- ・学生のレベルに応じたカリキュラムや指導の検討。

- ・授業担当講師・担任・カウンセラー・保護者と連携し、早期退学予備軍の発見による退学者の抑制。
- ・情報共有を紙媒体から Google ドライブ活用し電子化することで、事務効率アップと複写費等の一般管理費の抑制を実施する。
- ・2021 年度常勤講師にタブレット型パソコンを配布し、教育 ICT 化を促進する。

③ 特記事項

- ・予算管理について

学校運営にかかわる予算については、トライデント各校・各学科において年度予算を編成し、学校法人河合塾学園理事会の承認を経て予算が決定されている。予算執行については、河合塾グループの経理規程・予算管理規程に従い、承認された予算の各費目枠内で、執行担当者が所属長および学校長の承認を受けて執行する。予算と実績の差異は定期的にチェックし、予算実績管理の精度向上に努めている。

- ・監査・財務情報公開について

河合塾グループの部門として、監査法人による会計監査を受けて、良好との判定を得ている。さらに河合塾グループ監査室の内部監査も定期的に受け、問題がない旨の監査結果を得ている。また隔年ごとの愛知県の経常費用補助に関する指導検査にあたっては、健全かつ良好との講評を得ている。

私立学校法に基づく財務情報公開については、河合塾グループの一員として、法人事業報告と財務状況をまとめ、各校ホームページ上に公開している。

(9) 法令等の順守

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目 1：法令、専修学校設置基準等の順守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
項目 2：個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
項目 3：自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
項目 4：自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

評価： 適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

① 課題

評価項目 1 について

- ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営について、日々、注意を怠ることなく実行することを心掛ける。
- ・現在は自己点検にとどまっている。適正な学校運営を図るため、さらに第三者評価の導入の必要性を感じている。

② 今後の改善方策

既成の評価機関との連携か、評価のための本校独自の第三者評価団体の創設か、数年後の実施を視野に入れ、慎重に検討を進める。

③ 特記事項

- ・法令等の順守について

河合塾グループ法務部の監修のもと、専修学校設置基準など、該当する各法令に従い、種々の申請・届出・報告などの諸手続きを遅延なく確実に実施している。

・個人情報保護について

個人情報保護については、河合塾グループ情報セキュリティ事務局が設定している「個人情報保護方針」をはじめ、情報管理基本規定や各種ガイドラインなどの指示に基づき、業務フローにしたがって業務遂行にあっている。また、情報セキュリティ事務局による年1回の教職員・アルバイト対象のセキュリティ研修や、監査も行われている。学園としてプライバシーマークを取得している。2021年度プライバシーマーク更新年だが継続するかどうかは検討中。

・学校自己点検・評価は、学校運営において日常的に励行できていない事項、チェック確認が行き届かない事項について、確認・協議、検討・改善などを行う最適の機会であると位置付けている。また毎年実施される学校関係者評価委員会による会議においての指摘事項については、検討・改善を行っている。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価			
	4	3	2	1
項目1：学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1
項目2：学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
項目3：地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

・評価項目1について

学生数の増加で、平日は授業で空き教室がなく、土日祝日は広報イベントや河合塾模擬試験で教室利用をしており、施設活用については厳しい現状がある。

・評価項目2について

学校にくるボランティアの案内をする程度に留まっている。

・評価項目3について

リカレント教育の打診などあるが、現在の姉妹校とのあわせた教室稼働と夜間運営体制などのコストを鑑み、実施できていない状態。

② 今後の改善方策

近隣の商店街や笹島小学校などのデザイン関係のボランティアを引き続き検討する。

③ 特記事項

コロナ禍のため瑞穂通商店街との連携による有志のオリジナル作品の販売や中村区役所との連携による中村区区民まつりのポスターデザイン制作は中止となった。

2019年度に検討した笠寺商店街での商学連携については見送った。

インテリアデザインコースは日比野商店街と連携し、商店街の活性化や白鳥庭園の茶室提案などに取り組んだ。

(11) 国際交流

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目1：留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④	3	2	1
項目2：留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1
項目3：留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1
項目4：学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	④	3	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

・評価項目1について

台湾での留学生の直接獲得にむけては、コロナ禍で現地に足を運ぶことはできなかったが、オンラインによる現地との募集イベントには数回参加して、継続的な関係づくりを心掛けている。

優秀な留学生確保のための、国内の日本語学校とのパイプ強化

・評価項目4について

・数名の留学生が在籍している。留学生の就職に関しては、就労ビザ取得のために就職先の職務内容と専門学校における学修内容との関連性が必要であったり、日本語能力が必要であったりと、条件が厳しいため、日本の企業に就職させることが課題。

・留学生の人数が限られているので成果を発信する場面が少ない。

② 今後の改善方策

・台湾の日本語学校との継続した関係性強化。

・留学生の就職実績作りとアピール。

・業界就職が厳しい留学生には特定技能試験の受験も検討させる。

・留学生には、資格選択科目として日本語能力検定対策受講を必須とする。但しN1取得者に関しては、他の資格選択科目の受講は可。

③ 特記事項

トライデントで学ぶ外国人留学生はここ数年拡大の一途をたどっている。最近の傾向としては漢字文化圏の中国・韓国・台湾・香港に変わって、非漢字文化圏ベトナム・ネパール・スリランカなどの出身者が急増している。留学生募集時に、日本語能力検定N2取得者限定という原則を堅持することは非漢字圏からの留学生が増加する中で、厳しい状況にある。留学生の就職に関しては、就職先の職務内容と専門学校における学修内容との関連性が必要となり、これが、留学生にとって就職が厳しくなる要因である。

留学生の就労については、資格外活動許可を取得すれば、1週28時間（学校の長期休業期間は1日8時間）の範囲内で、禁止された場所や職種を除きアルバイトを行うことが可能。しかしながら、非漢字文化圏ベトナム・ネパール・スリランカなどからの留学生は本国との貨幣価値の相違から制限時間を越えて働こうとする者も少なくない。守られない場合、就職時に在留資格の変更・期間延長を得られない場合もある。そこで、本校では留学生に、入学前の入試時にも来日以降の就労状態の確認と在学中の「留学生アルバイト状況届書」を提出させるとともに留学生の在籍管理を徹底し、受け入れた

留学生の就職指導を徹底し内定へ導くサポートを行っている。

卒業年次ベトナムの留学生が春休みに母国に帰国し、コロナ禍のため9月後期授業開始まで、日本に入国できない事態が発生した。オンライン授業に対応していたため、母国から授業を受講することができた。卒業はできたが、日本語能力が高い学生ではないため就職活動には支障をきたし、就職が決まらず帰国することになった。2021年6月現在もコロナの影響で帰国便の手配ができない状況が続いている。

2020年度在籍者は9名。出身国はベトナム3人、スリランカ3人、インドネシア1人、中国2人。